

桃色1

平 兼盛
たいらのかねもり

しのぶれど

色にいでにけり

わがこひは

源宗千朝臣
みなもとのむねゆきあそん

山ざとは

冬ぞさびしさ

まさりける

前中納言匡房
さきのちゆうなごんまさむね

たかさごの

をのへのさくら

さきにけり

西行法師
さいぎやうほうし

なげけとて

月やはものを

おもはする

中納言行平
ちゆうなごんゆきひら

たちわかれ

いなばの山の

みねにおふる

文屋康秀
ぶんやのやすひで

ふくからに

秋の草木の

しをるれば

相 模
さがみ

うらみわび

ほさぬそでだに

あるものを

藤原實方朝臣
ふじわらさねかたあそん

かくとだに

えやはいぶきの

さしも草

藤原清輔朝臣
ふじわらきよすけあそん

ながらへば

またこのごろや

しのばれむ

陽成院
やうせいゐん

つくばねの

みねよりおつる

みなの川

桃色11

うしとみし
よそいまは
こひしき

こひにくち
なむなこそ
をしけれ

まつとしき
かはいまか
へりこむ

とやまのか
すみたたす
もあらなむ

ものやおも
ふとひとの
とふまで

こひそつも
りてふちと
なりぬる

さしもしら
しなもゆる
おもひを

むへやまか
せをあらし
といふらむ

かこちかほ
なるわか
みたかな

ひとめもく
さもかれぬ
とおもへは

桃色2

ふじわらのおきかせ

藤原興風

だれをかも

しるひとにせむ

たかさごの

こうたいごうぐうのだいぶとしなり

皇太后宮太夫俊成

よのなかよ

みちこそなけれ

おもひいる

たいけんもんいんほりかわ

待賢門院堀川

ながからむ

心も知らず

くろかみの

やまへのあかひと

山部赤人

たごのうらに

うちいでてみれば

しろたへの

さきのだいそうじょうぎょうそん

前大僧正行尊

もろともに

あはれと思へ

山ざくら

ゆうしないしんのうけのきい

祐子内親王家紀伊

音にきく

たかしの浜の

あだなみは

てんちてんのう

天智天皇

秋の田の

かりほのいほの

とまをあらみ

みなもとのしげゆき

源重之

風をいたみ

いわうつ波の

おのれのみ

だいにのさんみ

大貳三位

有馬山

あなのささはら

風ふけば

こんとよごうなごんさだいえ

権中納言定家

こぬ人を

まつほのうらの

ゆふなぎに

桃色22

いてそよひ
とをわすれ
やはする

わかころも
てはつゆに
ぬれつつ

はなよりほ
かにしるひ
ともなし

みたれてけ
さはものを
こそおもへ

まつもむか
しのともな
らなくに

やくやもし
ほのみもこ
かれつつ

くたけても
のをおもふ
ころかな

かけしやそ
てのぬれも
こそすれ

ふしのたか
ねにゆきは
ふりつつ

やまのおく
にもしかそ
なくなる